奈良女子大学

2018/03/05

やまと共創郷育センター NEWSLETTER

COC＋2018シンポジウム特別号
＜サテライト設置自治体での活動報告＞

奈良女子大学の「地域志向科目」

「奈良女子大学的教養」の理念に沿った問い、“奈良で学ぶことを通じてあなたは世界にどんな貢献ができますか”“大学で学ぶことはあなたと未来の世代の人たちにとってどんな意味がありますか”を具体的に問いかける科目です。奈良というフィールドにおいて、“社会的実践に飛び込む”“本物にふれる”“他者と学ぶ、他者から学ぶ”などのアプローチを駆使することによって、問題を解決する能力を養い、専門学の深い学びへとつなげ、多様な地域人材の輩出を目指しています。

県南部サテライト施設を活用したPBL型教育

人口減少や高齢化など地域の抱える課題を直に感じ見出すための学習拠点として、県南部の野迫川村（旧野迫川村中学校内）・下市町（下市町農村環境改善センター内）・十津川村（十津川村北部保健センター内）にサテライト施設を開設し、PBL型・フィールドワーク型の地域志向科目を開講しています。

奈良県の人口増減率

	H23.10.1	H28.10.1	人口増減率 (H28/H23)
奈良県	1,395,687	1,356,950	△2.8%
奈良市	365,929	358,786	△2.0%
吉野郡下市町	6,805	5,500	△19.2%
吉野郡野迫川村	514	424	△17.5%
吉野郡十津川村	3,991	3,399	△14.8%

サテライト施設設置

福祉住環境学 - 十津川村の高齢者の暮らしを学ぶ

担当：室﨑千重（生活環境学部）

前期開講・専門教育科目

授業の概要:中山間地域の高齢者福祉について十津川村での学習を通して学び、課題を深く理解し解決に向けた提案を考えることを目的とした。十津川村の集落に暮らす高齢者から暮らしの様子、生活課題のお話を通して地域への理解を深め、高齢者も最期まで暮らし続けられる村づくりの実践である「高森のいえ」等の見学を行った。グループごとに、地域での気づき、課題、提案を整理して発表した。

学生の感想(学生のレポートより抜粋):「地域に暮らす高齢者のお話を聞けたことがとてもよかった」「訪れて初めて中山間地域の暮らしが理解できた」「暮らしは不便だと思うが高齢者が出て行きたくないとの言葉に地域のあり方を考えさせられた」「お金による豊かさではなく、人との交流や手間をかけた食べ物を味わうなど、暮らしの本当の豊かさを感じることができるのが十津川村の魅力である」

担当教員からのコメント:中山間地域の高齢者の暮らしについて直接お話しを聞き、家や畑、周辺の環境に触れ合うことで実感を持つことができ理解が深まった。少子高齢化社会において全国で共通する課題も多く、居住継続ができる地域のあり方を考えるための重要な学びの機会となった。

パサージュ20A -中山間部の諸課題を把握する

担当：高田将志・吉田容子（文学部）

前期開講・教養教育科目

授業の概要:本授業における学びの特徴は、「実際に、地域に足を運んで、自分の目で確かめて実感する」ことである。今回は、奈良県吉野郡下市町において1泊2日の野外実習を行った。奈良県南部の中山間地域が直面している過疎化や高齢化、農林業が抱える諸問題を把握・実感し、主体的に考えてもらうことがねらいである。野外実習前の授業では、下市町について関心を持ったテーマを選び、各自下調べを行って発表した。野外実習後の授業では、参加学生による報告会を行った。

＜野外実習1日目＞漢方・茶葉・香辛料の卸問屋のご厚意により、所有の薬草園や倉庫を見学し、その後、役場内アクティビティセンターにて、同町の薬草栽培の歴史について講義を伺った。＜野外実習2日目＞山林所有者の方の案内で植林地に入り、間伐、枝払い、薪割等の作業体験の後、中山間地域の林業の現状について説明を受けた。

学生の感想(学生のレポートより抜粋):「理学部なので、普段はあまりこういった講義をとる機会はない。自分の専攻しているのとは違う領域の学問を学ぶ機会を得て、大学で学ぶべきは何か、改めて考えることとなった」「事前に下市町についてある程度のイメージをもって現地を訪れたわけだが、実際に訪れてみると文章やグラフからは見えてこなかった問題の複雑さというものが見えてきた」「チェーンソーで木を切った時の感覚は今でも覚えています。実際に体験をしたことで林業に対するイメージが変わり、今まで知らなかった山の役割を知れてとても興味が湧きました」「現場の難しさや手作業ゆえの効率性の悪さなど、様々な過疎地問題などもある中で、どんどん若い担い手がいなくなり、歴史ある林業が無くなってしまうのはもったいない。また、こういった問題が日本全国で起きているのだと思うと、何とかして解決していかないといけないなと思う。私自身は林業体験を通して、何か将来関われたら良いなと思いました」

地域居住学 - 野迫川村でのフィールドワークを通して

担当：中山徹（生活環境学部）

後期開講・専門教育科目

授業概要：野迫川村のフィールドワークでは人口減少・高齢化が特に著しい池津川集落や北股集落の被災現場を見学し、両区長さんのお話を伺った。また、獣被害等や猟師が減少している現状とそれに伴う森林保全の現状や、アマゴの養殖場を見学し養殖の現状を含む村の状況について学んだ。ワークショップでは①野迫川村の良いところ、②野迫川村で改善した方がいいと思う点、③学生が野迫川村で貢献できると思うことの3点について、学生が6班に分かれてグループディスカッションを行った。班内で話し合った結果を授業の最後でプレゼンし、各々の考えを全体で共有することで、野迫川村に対しての考えをさらに深めた。

学生の視点（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝから抜粋）：野迫川村の魅力や改善点を踏まえて、野迫川村の発展のために学生ができることを挙げていく中で、学生自身が現地の人と協力しながら企画・運営を行い、その情報をSNSなどさまざまな方法で発信し、たくさんの人に野迫川村を知り、企画にも参加してもらう、さらにその様子をまた拡散するということが考えられる。企画は、たとえば、現地でのイベントを行う、合宿で利用してもらえるような提案をするなどがある。ほかにも、野迫川村の豊かな自然を活かした天体観測イベント、あまごつり体験、狩猟イベント、サバゲー運営もあげられる。自然を利用したイベントを企画する際には自然の保護という観点も忘れてはならないと思う。さらに、改善点にもあげていた廃校の転用・リノベーションも特に私たち建築学生が積極的に関わることができることであるだろう。

コミュニティ・リサーチ - 地域コミュニティの課題把握法を学ぶ

担当：水垣源太郎（文学部）・佐藤克成（生活環境学部）

前期開講・専門教育科目（積極開放科目※）

授業の概要：本授業（コミュニティ・リサーチ）は、後期授業（コミュニティ・アクション）とともに、地域コミュニティの現状を理解するためのコミュニティ社会学の理論と方法を実践的に学び、それを通して、課題の解決の糸口となるアクション（PRコンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）の企画・実践の過程を体験的に学ぶことを目的としている。本授業ではまず、コミュニティ社会調査の方法論とその実践例（らくらく農法）を概説した後、下市町広橋区の地域住民の方々や下市町役場地域づくり推進課の協力を得て、2回の現地調査実習（集落点検）と巡検、地域文化資源体験実習（朴ノ葉寿司づくり）を行った。その成果はフォトブックにまとめて、後期授業の現地調査時にご協力いただいた地域住民の方々に還元した。

学生の感想（学生のレポートより）：受講生のほとんどが下市町や中山間地域に関する理解が「深まった」、本授業を「受講してよかった」と回答した。特に奈良高専との合同で行った現地実習（集落点検）は、地域住民の方々から直接お話を伺うことで貴重な体験となったとともに、楽しく地域を学ぶことにつながっている。

担当教員からのコメント：受講生の多くは、奈良県外の過疎地域の出身であり、もともと地域コミュニティの問題への関心が高かった。奈良県南部中山間地域の課題を現地住民の方々から直接うかがうという経験、地域の持つ文化資源を体験を通して見直すという経験によって、学生は奈良を理解するのみならず、地域コミュニティの課題解決のための実践的方法論を習得することができた。特に、その調査（集落点検）の成果がフォトブックという成果として地域に還元することができたことも学生と地域の両方に役立つ授業となったと考えられる。

※積極開放科目
教養教育と専門科目を連携させるために、積極的に他学科や他学部の学生の履修を受け入れる専門科目。

コミュニティ・アクション - 地域コミュニティの課題解決に向けた活動実践
担当：水垣源太郎（文学部）・佐藤克成（生活環境学部）

後期開講・専門教育科目（積極開放科目※）

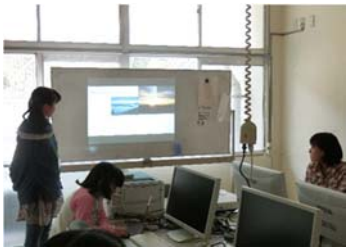
授業の概要：本授業（コミュニティ・アクション）は、前期授業（コミュニティ・リサーチ）に引き続き、地域コミュニティの現状を理解するためのコミュニティ社会学の理論と方法を実践的に学び、それを通して、課題の解決の糸口となるアクション（PRコンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）の企画・実践の過程を体験的に学ぶことを目的としている。本授業では、奈良県下市町をフィールドとして、下市町役場地域づくり推進課および奈良県農業研究開発センターの協力を得て、地域おこしにかかわるプロジェクトを行った。受講生は、まず事前課題として、奈良フードフェスティバル「C'festa（シェフェスタ）」あるいは任意の「観光地」（道の駅を含む）のご当地食品について評価レポートを作成した。その後、2グループに分かれて、観光ビデオクリップの作成（VD班）、柿アイスクリームの開発に向けた木製容器開発（SC班）を行った。

学生の感想：受講生のほとんどが下市町や奈良に関する理解が「深まった」と回答している。自由記述において目立ったのは、農業等さまざまな体験を伴う地域授業の楽しさである。これにより、前期受講者の多くが後期も受講することにつながった。

担当教員からのコメント：本授業では、ゲストスピーカーから観光ビデオクリップや地域特産品の開発に関する広報素材の開発に関する情報と技法を学び、現地取材に基づいて、それらを活かしたビデオや地域特産品の制作・開発に取り組んだ。次年度も地域住民の方々から直接学びつつ、地域にも貢献し得る集落点検法や地域特産品開発を中心として本授業を展開したい。

サテライト施設で実施したその他の活動　「野迫川村女子大塾」

学習塾等の学校以外の教育サービスを享受できない野迫川村の小中学生に対して本学学生が同村に出向き、春休みや夏休みに学習指導やレクリエーション活動を「奈良女塾」として実施しました。



木工作品展示場（本学N棟1階）

奈良県南部地域に入り、地方創生に寄与している学生の姿を紹介することにより、本学に在籍するより多くの学生にも地域に飛び込むことで得る学びの重要性や動機づけを促しました。

奈良女子大学　やまと共創郷育センター
〒630-8506　奈良市北魚屋東町　奈良女子大学コラボレーションセンター1階
TEL 0742-20-3989　　FAX 0742-20-3993　　Email: coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp